

JSCA 鉄鋼系部会 定例会議題

2022.9.30 竹中石原

日時：9/30（金）18：30－19：40

場所：竹中工務店 8F N o. 1 会議室

議事録：

①【11月後半か12月前半に中部鋼板において電炉に関する講習会及び圧延ライン見学会】を予定しています。鉄鋼系部会メンバー限定とし、**募集人数は20名程度**とします。部会内でメンバーが集まらない場合は、メンバーを通じてメンバー外に募集をかけます。

②【溶接体験会】を企画します。

2023年2月4日（土）を第一候補として、調整を始めます。

募集人員は前回同様の32名とします。

③日頃のお悩み相談会

■7～8m程度の吊り庇、片持ち梁になっており、直交する小梁をルーズ孔で熱収縮対策とする事を考えています、桁方向の総長さで決まると思いますが、目安は何mくらいだと思いますか？

⇒・温度応力次第、計算して伸び量でその可否を決める。

・30m?程度で2～3スパン毎にルーズを切った事例あります。

・熱応力で面外に繰り返し荷重を受けるので、根元をGPLのみのディテールは要注意、必ずフランジなどで面外を拘束すると良い。

■床面積が広めのプロジェクトにおいてEXP.Jをどの程度の@で切りますか？

⇒・荷重指針に目安の記載があったと思います、100mくらいだと思います。

・温度応力の解析をおこない決定します。

・以前に比べて間隔は広がり、巨大化している。

■めっき部材で手違いがあり、溶接が必要になった場合、めっき用の溶接棒があると聞きました、性能等をご存知の方はいますか？

⇒薄めのメッキの溶接になり、使用経験があります。ガスの発生がスゴく、現実問題として、使用は難しいと思いました。めっきを落とすのが原則では？

■鉄骨の製作において現場溶接部の縮み代は、これまで考慮無しで製作してきましたが、少し前のファブ数社での打合せにおいて考慮しているファブが多かったのですが、現実はどうでしょうか？

⇒工場製作では考慮しているが、現場溶接の場合、ウェブが固定されているので、縮まないと考えていました。実際、考慮して製作したが想定通りには縮まなかった。

■製品検査等の第三者検査において、どのような報告書が見て判りやすいですか？

⇒・最近の報告書は合格きずも判りやすく絵にしてくれており、改善されていると思います。

・社内検査の報告書と符号が合っているとよい。

・指示事項が少ない報告書は寂しいので、指示事項や所感を入れて貰えると良いと思う。

■電炉厚板を PR しているが、なかなかご理解いただけません。どうすれば理解してもらえますか？

⇒・社内規準があっても設計者の理解不足もあるかも、設計者が勉強できる環境が必要。

・追い風になっていますので、今後は理解が進むと思います。

■韓国3社でBCPの大臣認定取得が取得されました、使用に当たって不安が何かありますか？材料はポスコ材です。納期を売りにしており、BCRと変わらない納期と思います。もう現実に使う事ができ、実際現場に入っている物件もあります。

⇒コストと納期に魅力があるなら採用すると思います。

・設計者は出来れば使用したくないと考えるかもしれませんが、現実的には他の要因で使用する事になると思います。

・コラムの精度的な問題が無いのかが心配です。

以上